

# 木を 森を活かす

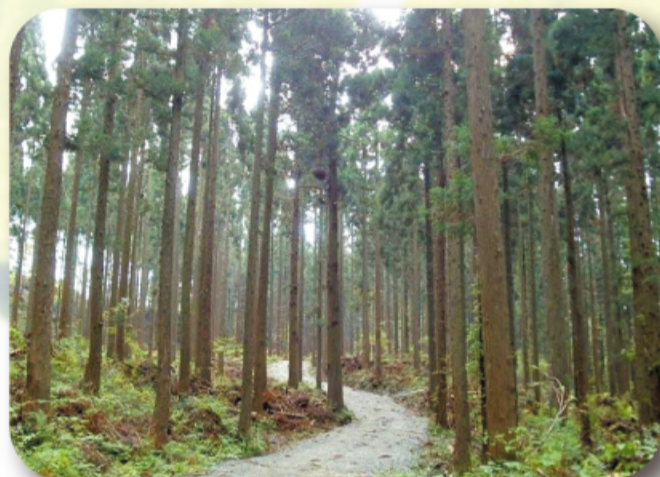
## 農林業を振興して森を経済的に活用する

先人たちのたゆまぬ努力で培われた知恵と工夫により、農林水産業が発展し、森を守り、地域を支える原動力となってきました。まさに森林文化都市の土台であると言えます。



### 間伐の推進

健全な森林を育てるために、間伐は必要不可欠な施業です。健全な森林は天災に強いだけでなく、生物多様性、水源涵養、温室効果ガスの削減にも寄与します。



### 林道・作業道の整備

木材価格が安い中で、施業コストを抑える機械化を促進するために、林道、作業道の整備を行っています。特に作業道については10ヶ年計画を策定して進めています。



### 山ぶどうの活用

地域の特産品開発の一環として、旧朝日村で自生する山ぶどうを使った本格ワインの研究開発を昭和47年から進め、昭和54年に果実酒製造免許を取得。「月山ワイン」と命名し製造をしています。



### 地元産木材の利用促進

地元産木材の公共施設への利用を促進するため、鶴岡市では「分離発注方式」を採用しています。これにより流通コストが下がり、森林所有者への利益の還元が期待されます。(写真は鼠ヶ関小学校)



### 赤カブの焼畑

鶴岡市内では昔ながらの焼畑で赤カブを作っております。焼いた斜面に赤カブを植えて、収穫後は山林として戻すという自然循環型の農業です。



### キノコの栽培

多くの地域で広葉樹を切って、原木ナメコやシイタケなどを栽培しています。